

愛 媛 県 病 院 事 業 会 計

第 5 愛 媛 県 病 院 事 業 会 計

1 概 要

(1) 事業の実施状況

病院事業会計に属する病院は、中央、今治、南宇和及び新居浜の4病院である。

ア 病院の利用状況

病院の利用状況は次表のとおり、入院患者延べ 476,092人、外来患者延べ 800,848人、計 1,276,940人となっており、前年度に比べて入院患者は延べ 10,209人、外来患者は延べ 60,368人、計 70,577人減少している。

なお、平成21年度末に譲渡した三島病院を除く4病院の合計では、入院患者は延べ 18,272人増加し、外来患者は延べ 2,356人減少している。

病床数は 1,722床で、三島病院の譲渡に伴い前年度に比べて 183床減少しており、病床利用率は 75.75%と 5.81ポイント上昇している。

病院名	入 院 ・ 外 来 別	病 床 数	平 成 2 2 年 度 (A)			平 成 2 1 年 度 (B)			増 減 () (A) - (B)		
			延 患 者 数	1 日 平 均 患 者 数	病 利 用 率	延 患 者 数	1 日 平 均 患 者 数	病 利 用 率	延 患 者 数	1 日 平 均 患 者 数	病 利 用 率
中 央	入 院	8 6 4	人	人	%	人	人	%	人	人	ポ イ ン ト
	外 来		285,629	782.5	90.57	271,295	743.3	86.03	14,334	39.2	4.54
	計		420,527	1,730.6		414,725	1,713.7		5,802	16.9	
今 治	入 院	3 2 0	84,030	230.2	71.94	80,874	221.6	69.24	3,156	8.6	2.70
	外 来		159,022	654.4		163,350	675.0		4,328	20.6	
	計		243,052	884.6		244,224	896.6		1,172	12.0	
三 島	入 院	(1 8 3)				28,481	78.0	42.64	28,481	78.0	42.64
	外 来					58,012	239.7		58,012	239.7	
	計					86,493	317.7		86,493	317.7	
南 宇 和	入 院	1 9 9	40,080	109.8	55.18	43,942	120.4	60.50	3,862	10.6	5.32
	外 来		108,130	445.0		114,799	474.4		6,669	29.4	
	計		148,210	554.8		158,741	594.8		10,531	40.0	
新 居 浜	入 院	3 3 9	66,353	181.8	53.63	61,709	169.1	49.87	4,644	12.7	3.76
	外 来		113,169	465.7		110,330	455.9		2,839	9.8	
	計		179,522	647.5		172,039	625.0		7,483	22.5	
合 計	入 院	1,722	476,092	1,304.4	75.75	486,301	1,332.3	69.94	10,209	27.9	5.81
	外 来		800,848	3,295.7		861,216	3,558.7		60,368	263.0	
	計		1,276,940	4,600.1		1,347,517	4,891.0		70,577	290.9	

イ 施設及び医療機器の整備状況

(ア) 施設の整備状況

今治病院では地域周産期母子医療センターの認定取得のため周産期病棟を改修したほか、今治、南宇和病院で、看護師の夜間勤務時などの負担軽減とともに看護の一層の充実を図るため、ナースコールの改良工事を行っている。

(イ) 医療機器の整備状況

医療水準の高度化並びに診療及び診療支援業務の合理化・効率化を図るため、すべての県立病院で超音波診断装置、内視鏡関連機器を更新したほか、新居浜病院に災害派遣医療チーム（DMAT）を配備するための災害派遣用医療機器を整備するなど、総額4億5,640万円で135点の機器を整備している。

ウ 経営健全化への取組状況

「第3次愛媛県立病院財政健全化計画」（平成21年8月策定）に基づき、当年度に実施された主な経営健全化方策は次のとおりである。

なお、当年度の純利益は12億円余となり、本計画の見込（5億円余の純損失）を大きく上回っている。

(ア) 看護体制について、より充実した看護の実施とともに収入の確保を図るため、中央病院で平成22年6月から7対1看護体制を導入した。

(イ) 4疾病5事業への対応強化と患者に分かりやすい診療体制とするため、中央病院に、脳卒中センター、循環器病センター、総合診療センター、災害医療センターを設置するとともに、新居浜病院に糖尿病外来を開設した。

(ウ) 安定した医師の確保と医療技術の向上を図るため、愛媛大学医学部と連携し、県立病院医師臨床能力ステップアップ研修開発事業（平成22年度から26年度までの5年間）を開始した。

(エ) 病診連携の強化に取り組み、中央病院では平成22年10月に地域医療支援病院の承認を受けた。

エ 中央病院建替えの取組状況

中央病院の建替えについては、PFI手法による新本院の建設や施設運営業務等が進められており、当年度は立体駐車場を新築したほか、旧立体駐車場を解体し新本院の新築工事に着工した。

(2) 経営状況

経営状況（消費税等を含まない額）は、医業収益に医業外収益と特別利益を加えた総収益が 38,914,676,214円、医業費用に医業外費用を加えた総費用が 37,649,459,883円で、差引き 1,265,216,331円の純利益を生じており、前年度実績（3,066,452,103円の純損失）に比べて 4,331,668,434円増加している。

この結果、総収支比率（総収益÷総費用×100%）は 103.36%となり、前年度より 11.17ポイント上昇している。

また、累積欠損金は 21,805,506,175円となっており、前年度より 1,265,216,331円減少している。

2 予算及び決算の状況（決算報告書）

予算額に対する決算額及びその内容は、次のとおりである。

(1) 収益的収入及び支出

収 入

区 分	予算額 (A)	決算額 (B)	予算額に比べ 決算額の増減 ()	執行率 (B)/(A)	備 考
	円	円	円	%	
病院事業収益	39,914,719,000	38,964,336,332	950,382,668	97.62	
医業収益	34,973,401,000	34,091,308,737	882,092,263	97.48	
医業外収益	4,939,318,000	4,861,002,595	78,315,405	98.41	
特別利益	2,000,000	12,025,000	10,025,000	601.25	

病院事業収益決算額は 38,964,336,332円で、予算額に比べて 950,382,668円の減収となっており、執行率は 97.62%となっている。医業収益の主なものは、入院収益 25,224,766,490円、外来収益 7,863,344,605円である。

支 出

区 分	予算額 (A)	決算額 (B)	翌年度繰越額	不用額	執行率 (B) / (A)	備 考
	円	円	円	円	%	
病 院 事 業 費	39,176,434,000	37,237,663,595	0	1,938,770,405	95.05	
医 業 費 用	37,751,787,000	35,982,422,205	0	1,769,364,795	95.31	
医 業 外 費 用	1,415,147,000	1,255,241,390	0	159,905,610	88.70	
特 別 損 失	8,000,000	0	0	8,000,000	0.00	
予 備 費	1,500,000	0	0	1,500,000	0.00	

病院事業費決算額は 37,237,663,595円で、1,938,770,405円の不用額を生じており、執行率は 95.05%となっている。
 医業費用の主なものは、給与費 20,043,857,710円、材料費 9,175,487,527円である。
 医業費用の不用額の主なものは、材料費、給与費である。

(2) 資本的収入及び支出

収 入

区 分	予算額 (A)	決算額 (B)	予算額に比べ 決算額の増減 ()	執行率 (B) / (A)	備 考
	円	円	円	%	
資 本 的 収 入	12,001,732,000	11,912,414,000	89,318,000	99.26	
企 業 債	3,494,800,000	3,098,300,000	396,500,000	88.65	
国 庫 補 助 金	1,000	306,900,000	306,899,000	-	
他 会 計 か ら の 借 入 金	6,400,000,000	6,400,000,000	0	100.00	
他 会 計 か ら の 負 担 金	2,106,931,000	2,105,539,000	1,392,000	99.93	
固 定 資 産 売 却 代 金	0	1,675,000	1,675,000	-	

資本的収入決算額は 11,912,414,000円で、予算額に比べて 89,318,000円の減収となっており、執行率は 99.26%となっている。

支 出

区 分	予算額 (A)	決算額 (B)	翌年度繰越額	不用額	執行率 (B) / (A)	備 考
	円	円	円	円	%	
資 本 的 支 出	12,997,254,000	12,883,683,646	5,786,000	107,784,354	99.13	
病 院 設 備 費	4,542,856,000	4,429,332,378	5,786,000	107,737,622	97.50	
企 業 債 償 還 金	2,054,398,000	2,054,351,268	0	46,732	99.99	
他会計からの借入金償還金	6,400,000,000	6,400,000,000	0	0	100.00	

資本的支出決算額は 12,883,683,646円で、5,786,000円を翌年度へ繰り越し、107,784,354円の不用額を生じており、執行率は 99.13%となっている。

なお、資本的収入額が資本的支出額に不足する額は当年度損益勘定留保資金で補てんしている。

3 経営成績（損益計算書）

当年度の経営成績は別表 1 のとおりで、その内容は次のとおりである。

当年度は 1,265,216,331円の純利益となっている。

なお、前年度は 3,066,452,103円の純損失であった。

(1) 医業損失

医業収益 34,052,372,049円に対し、医業費用は 35,731,838,244円で、差引き 1,679,466,195円の医業損失を生じており、前年度に比べて 2,215,308,299円（56.88%）減少（改善）している。

医業収益は、前年度に比べて 2,232,436,420円（7.02%）増加している。これは入院収益の増加によるものである。

医業費用は、前年度に比べて 17,128,121円（0.05%）増加している。これは主として資産減耗費の増加によるものである。

(2) 経常利益

医業損失に医業外収益 4,850,279,165円を加え、医業外費用 1,917,621,639円を差し引いた経常利益は 1,253,191,331円となっており、前年度の経常損失 1,177,078,096円から改善している。

医業外収益は、前年度に比べて 535,638,720円（12.41%）増加している。これは主としてその他医業外収益の増加によるものである。医業外費用は、前年度に比べて 320,677,592円（20.08%）増加している。これは主として雑損失の増加によるものである。

(3) 当年度純利益

経常利益に特別利益 12,025,000円を加えた当年度純利益は 1,265,216,331円となっている。前年度は 3,066,452,103円の純損失であった。

なお、病院別損益の状況は別表3のとおりである。

4 剰余金の状況（剰余金計算書及び欠損金処理計算書）

当年度における欠損金の処理及び剰余金の増減については、次のとおりである。

(1) 欠損金

前年度繰越欠損金 23,070,722,506円に、当年度純利益 1,265,216,331円を加え、当年度末の欠損金残高は 21,805,506,175円となっている。この欠損金は、翌年度へ繰り越すことになっている。

(2) 資本剰余金

前年度末残高 9,534,913,426円に対し、次のとおり国庫補助金、県補助金及び受贈財産評価額の発生・処分があり、当年度末残高は 11,941,747,247円となっている。

ア 国庫補助金

前年度末残高 1,143,799,060円に、社会資本整備総合交付金 306,900,000円を加え、医療機器の除却に伴う取崩し 3,963,996円を差し引いた国庫補助金の当年度末残高は 1,446,735,064円となっている。

イ 県補助金

前年度末残高 7,812,521,200円に、建設改良費負担金、核燃料サイクル負担金等 2,105,539,000円を加え、医療機器の除却に伴う取崩し 49,689,243円を差し引いた県補助金の当年度末残高は 9,868,370,957円となっている。

ウ 受贈財産評価額

前年度末残高 558,695,140円に、リース期間の終了した医療機器の受納等 58,090,500円を加え、医療機器の除却に伴う取崩し 10,042,440円を差し引いた受贈財産評価額の当年度末残高は 606,743,200円となっている。

5 財政状態（貸借対照表）

当年度末における財政状態は別表2のとおりで、その内容は次のとおりである。

資産は 35,016,708,273円で、前年度に比べて 5,441,016,656円（18.40%）増加している。

負債は 18,921,103,400円、資本は 16,095,604,873円となっており、前年度に比べて負債は 725,017,772円（3.98%）、資本は 4,715,998,884円（41.44%）それぞれ増加している。

(1) 資 産

ア 固定資産は 25,779,166,199円で、資産合計に対する構成比率は 73.62%となっており、前年度に比べて 2,943,780,791円増加している。これは主として中央病院の建替えに伴う建設仮勘定の増加によるものである。

イ 流動資産は 8,441,237,049円で、資産合計に対する構成比率は 24.11%となっており、前年度に比べて 2,366,468,253円増加している。これは主として現金預金の増加によるものである。

なお、未収金 6,041,558,644円のうち医業未収金は 5,556,367,808円で、その内容は、保険者負担分 4,923,640,963円、個人負担分 632,726,845円となっており、個人負担分のうち過年度未収金は 421,293,193円となっている。

ウ 繰延勘定は 796,305,025円で、資産合計に対する構成比率は 2.27%となっており、前年度に比べて 130,767,612円増加している。これは控除対象外消費税額の増加によるものである。

(2) 負 債

ア 固定負債は 12,165,941,210円で、負債資本合計に対する構成比率は 34.74%となっており、前年度に比べて 167,490,830円増加している。これは退職給与引当金の増加によるものである。

イ 流動負債は 6,755,162,190円で、負債資本合計に対する構成比率は 19.29%となっており、前年度に比べて 557,526,942円増加している。これは主として未払金の増加によるものである。

(3) 資 本

ア 資本金は 25,959,363,801円で、負債資本合計に対する構成比率は 74.14%となっており、前年度に比べて 1,043,948,732円増加している。これは中央病院の建替え等に係る企業債の増加によるものである。

イ 剰余金の内訳は、資本剰余金 11,941,747,247円、欠損金 21,805,506,175円となっている。